

カボチャ (ウリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
タネまき	植えつけ	収穫									

カボチャは、収穫を急がないのなら、じかまきでも作れますし、急ぐなら苗からでもできます。面積はとりますが、やせた土地にも作れ、失敗はありません。日よけがわりにも作れます。

品種

日本種と洋種があります。日本種は菊座形のたて溝のある果実

で、果肉は粘質で、ねっとりとした食味です。一般に早生で早く収穫できます。

洋種は、果面は平滑で栗形。果肉がぼくぼくとした粉質です。

〔日本種〕平安小菊、会津小菊、日向14号、極早生富津黒皮、備前ちりめん、はやと

〔洋種〕えびす、近成えびす、菊水、芳香青皮栗（東京）、近成芳香、きぬた、みやこ、あずま、打木

栽培ポイント

タネまきや苗の植えつけの2週間ぐらい前に、苦土石灰、ヨウリンをまいて、畑をよく耕しておき、1週間後にくらつきをします。くらつきとは、直径30～40cm、深さ30cmの穴を掘り、元肥えを入れて盛り上げたもので、1m畝に株間1.5mごとに作ります。

カボチャは肥料を吸う力が強いので、肥料を多く施すとつるぼけを起し、つるばかりが茂って実がなりません。前作の野菜に肥料を多く施し、土地が肥えている場合は控えめにします。

各地の桃の花の咲くころ（4月上～中旬）に、くらつきにタネをまいて川砂で覆土します。

川砂をかけるのは地温を上げるためと、ウリバエが産卵しないようにするためです（ウリバエは乾いた土には産卵しません）。当分ホットキャップをかぶせて保温します。順調にゆけば5～7日で発芽してきます。苗がホットキャップにつかえるようになれば、キャップを少しずつ破って外気にならしていきます。

生長に従って、だんだんに間引いてゆき、本葉3枚ぐらいのときに、よい苗1本にしますが、このとき、引き抜くと残す苗の根が傷んでしまうので、ハサミで切るようにします。

苗を買って植える場合も、同じようにくらつきをし、本葉3～4枚の苗を4月下旬に植えます。カボチャは果菜のなかでは低温に強いほうですが、それでも植えつけ後、温暖な日が少なくとも2～3日つづくときをみはからって植えつけます。

植えつけ後水をやり、苗の周囲に川砂を敷いてから、ホットキャップをかぶせます。

以後の育て方は、苗を植えた場合も、タネからまいた場合も同じです。

日本種は、本葉5～6枚で親づるを摘芯し、子づる3～4本を出させます。洋種は摘芯しません。

日本種は、子づるの4～5節目に雌花をつけ、その後3～4節おきに雌花をつけます。洋種は、親づるには10～17節目に、子づるには5～6節目に雌花をつけます。

●受粉● 雌花が咲いたら、早朝（午前8時ごろまで）に雄花をとって、雌花に交配してやります。特に梅雨時は、昆虫の飛来が少ないので、人工交配が効果的です。雨の多いときは、雌花と雄花に袋をかけておきます。雄花の雄しべ一つで数個の雌しべに受粉できます。雄しべを手になすり、花粉が出るのを確かめてから受粉します。

雌花は開花して2～3日のものも受粉しますが、雄花はその日に咲いたものでないと、受粉の能力がありません。しかも気温が上がってくると花粉の発芽力が落ちますので、早朝に受粉します。

日本種は初期、雌花が咲くころには雄花がないものですが、洋種の雄花でも受粉できます。

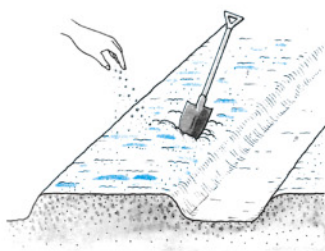
着果し始めたころから追肥を施し、敷きわらをします。日本種は開花後25～30日、洋種は開花後45～50日ぐらいで収穫期になります。

栄養

黄緑野菜の代表でビタミンAの中のカロチンを多量に含み、カロリーも高い野菜です。

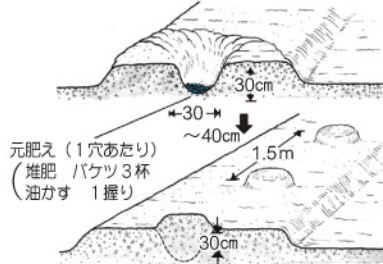
1 畑の準備

1㎡あたり、2握りの苦土石灰と1握り弱のヨウリンを畑にまき、土とまぜておく。



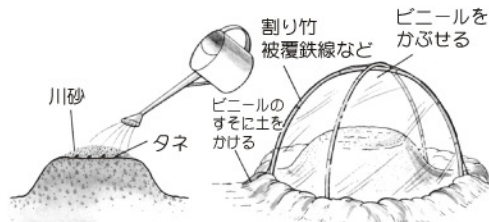
2 くらつき

畝幅1mのベッド畝を作り、1.5m間隔に直径30～40cm、深さ30cmの穴を掘り、元肥えを入れてから土を戻し、盛り土をしてくらつきをする。



3 タネまき

4月上～中旬に、くらつきにタネを4～5粒ずつまき、川砂をかけて、じょうろで水をやる。そのあと、ホットキャップをかぶせる。



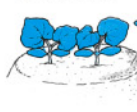
4 間 引 き

3回に分けて間引き、1本立てにする。3回目の間引きは、引き抜かずに、はさみで切る。

○1回目の間引き
本葉1枚のとき
3本に間引く



○2回目の間引き
本葉2枚のとき
2本に間引く



○3回目の間引き
本葉3枚のとき
1本に間引く



はさみ
で切る

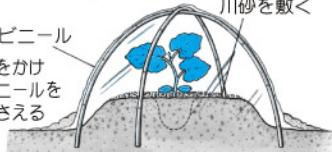
6 苗の植えつけ

4月下旬、風の無い日の午前中に、くらつきに1本ずつ植える。根鉢の表面が2cm程度でる位の深さに植え、茎に土を寄せない。



株の周囲に
川砂を敷く

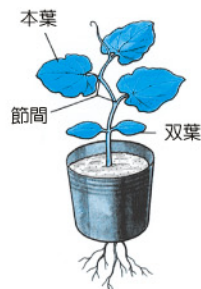
ピニール
土をかけ
ピニールを
あさえる



5 市販苗の選び方

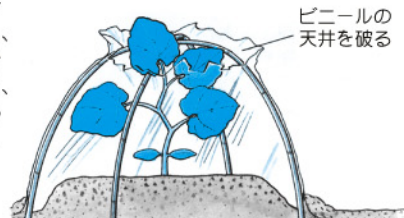
○苗の選び方

本葉3～4枚、双葉がついている、節間がつまっている、根がとぐろを巻いていない、病虫害がない、などの点をチェックする。



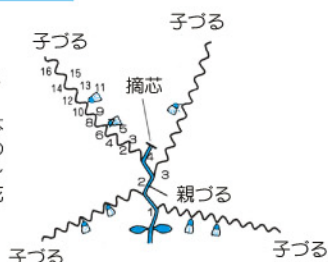
7 ホットキャップの換気

タネをまいた場合も苗を植えた場合も、苗がキャップにつかえるようになったら、キャップを少しずつ破って外気にならしめてゆく。

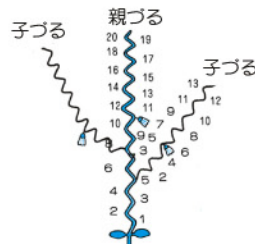


8 摘芯・整枝

○日本種
本葉5～6枚で摘芯し、子づるを4本伸ばす。この子づるの4～5節目に雌花がつく。

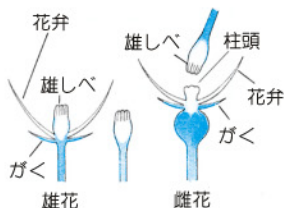


○洋種
摘芯はせずに、親づると、子づる2～3本を伸ばす。親づるの10～17節目と、子づるの5～6節目に雌花がつく。



9 人工交配

昆虫の飛来が少ない梅雨どきや市街地では、結実させるのに人工交配が効果がある。雌花が咲いたら、早朝（午前8時ごろまで）に雄花をとって、雌花に交配してやる。

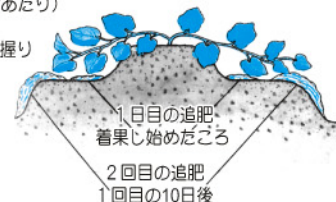


雄花の花弁、ガくを取り除き、雄しべを雌花の柱頭に軽くふれさせ、花粉を柱頭につける

10 追 肥

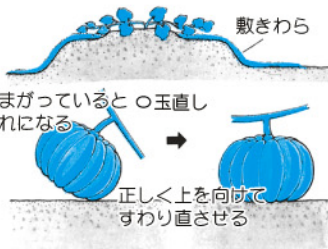
追肥は2回、それぞれに、つるの先端部の土に施し、土をかけておく。

1回の追肥量（1㎡あたり）
（硫安 1/7握り）
（硫酸カリ 1/14握り）



11 敷きわら・玉直し

つるが広がるので、追肥が終わったら梅雨入り前に全体に敷きわらをしておく。



12 収 穫

よく熟し収穫する。

○日本カボチャの収穫適期
果皮がやや褐色がかり、白粉をふくころで、大きさは1個1.5～3kg（1㎡あたり4～6個）



○洋種カボチャの収穫適期
開花後40～50日。果柄がコルク化し、亀裂が全面に入ったころで、1個の大きさは2.5～4kg（1㎡あたり4～5個）



主な病害虫

◆病気 ベと病、うどんこ病、疫病
◆害虫 アブラムシ、ウリバエ